

審 議 結 果

会 議 名	令和5年度 第2回川口市学校給食運営審議会
開 催 日 時	令和5年10月31日(火) / 午後1時30分～3時30分
開 催 場 所	川口市立青木会館
出 席 者 (会長に◎、副会長に○)	◎井上会長、○浅沼副会長、神山委員、石神委員、 鈴木委員、佐々木委員、小出委員、功刀委員、 新井俊之委員、蓑輪委員、箕輪委員 中川部長、狩野課長、横田課長補佐、藤倉係長、大和課長補佐 江森指導主事、田中主査、吉田主事、山田主事
議 題	1 令和6年度の学校給食費について 2 その他
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	
傍 聴 人 の 数	1人
会 議 資 料	令和5年度 第2回川口市学校給食運営審議会資料
審 議 経 過	別紙のとおり

令和5年度 第2回 川口市学校給食運営審議会会議録

1 日 時 令和5年10月31日（火）午後1時30分～午後3時00分

2 会 場 川口市立青木会館 3階 B・C会議室

3 出席者

川口市学校給食運営審議会委員 11名（定数14名、うち3名欠席）

井上 千春（川口市立辻小学校長）

浅沼 良成（学校法人文化学園川口文化幼稚園理事長）

神山 浩（一般社団法人川口市医師会理事）

石神 敬（川口市保健所食品衛生課長）

鈴木 恵子（川口市食生活改善推進員協議会芝西支部支部長）

佐々木 小百合（川口市立神根東小学校長）

小出 喜代子（川口市立安行中学校長）

功刀 幸代（川口市立戸塚西中学校長）

新井 俊之（川口市PTA連合会副会長・川口市立十二月田中学校PTA会長）

蓑輪 隼人（川口市PTA連合会副会長・川口市立神根東小学校PTA会長）

箕輪 幸枝（川口市PTA連合会副会長・川口市立辻小学校PTA副会長）

教育委員会事務局 9名

中川学校教育部長、狩野学校保健課長、横田管理係長、藤倉給食第1係長、
大和給食第2係長、江森指導主事、田中奈穂主査、吉田主事、山田主事

4 議事概要

(1) 開会

(2) 挨拶（部長、会長）

(3) 議事

事務局より川口市学校給食運営審議会条例第8条第2項に基づき、会議が成立している旨の報告後、以下の審議がなされた。

議題1 令和6年度学校給食費について

事務局が説明

【質疑応答概要】

1 物価高騰を踏まえた献立作成・食材選定について

○委員：常日頃、買い物に行った際にも、価格の高騰は感じている。

令和元年度食品選定委員会の委員として話し合いに参加していた際、栄養士は栄養を落とさないよう、価格面に配慮しながら食品を選んでいった。当時から4年経過する中で、さらに物価は上がっている。子供の食育を考えた際に、価格を据え置くことは難しいと思う。何もせずに給食費の改定ではない。市として十分にいろいろ取り組んでいただいた上での給食費改定だと思う。

○会長：1（2）「食材選定について」では、価格の低い食品を購入するとあるが、どのように考えるか。

○委員：「価格の上昇が著しい食材の選定は控える」とあるが、それを受けての給食費の改定となると思う。どのように見積もっているのか。

○事務局：食品選定は毎月行っている。そこで、複数の業者から入札という形で、価格や物を納品してもらい、会議を行っている。選定の場では前回の価格も示し、選定を行っている。その際、同じものでありながら、前回の価格より1割以上値段が上がっているものに関しては、その食品で良いのか、再検討した事例がある。

○委員：皆さん努力をなさっていて、やむを得ない、というところだと思う。

○会長：1（2）「安全性が担保されている外国産食材の活用」とあるが、外国産食材の活用についてはどう思うか。

○委員：外国産の食材であっても、国内で調理、提供される場合は、国内法が適用される。安全性の確保という点では、担保となるような書類の提出を業者に求める方法がある。給食センターや自校式の調理施設においては、保健所において定期的に監視指導を行っている。今後も行っていきたい。

○委員：価格の高騰でいたしかたないと思う。個人的には外国産食材に大きな抵抗はないのだが、食品衛生法に数値的なものが示されているのであれば、あまり後ろ向きになることなく、価格の中でできることを採用していかななくてはならないのではないかと、思う。

○委員：給食費と関連して、外国産の食材と円安の影響を受けない物はあるのか。

○事務局：すでに外国産を使用しないといけない物はある。ブロッコリーやごまは国産のものでは賄いきれないので、外国産でやむを得ない。円安の影響までは厳密に分析していな

いが、一般的に外国産のものの方が安い。現在は国産のものメインで使用しているものとして、とうもろこし、たけのこ、フライドポテトなどがある。そのような分野の中では円安の影響を考えると、安価になると考える。国産メインで使用しているもの、ほぼ外国産のものしかないようなものについては、次回までにまとめて提示する。

○会 長：国産メインで使用しているが、今後、外国産になっていく、と考えてよいか。

○事務局：現時点ではなるべく国産のものを扱っているが、安全性の担保が取れ、数字が示されているものであればやむを得ないのではないかと、という学校給食運営審議会での意見がまとまったら、食品選定の場で適用していきたい。

○委 員：安全の見極めに関しては、食品衛生法の規制を受けているものの一例を挙げると、野菜等には残留農薬の規格基準が設けられている。国内に流通している野菜等は、国がモニタリング検査等を実施しており、基本的には基準値内で安全なものである。

また、輸入食品の違反状況については、主体的に事務を行っている厚生労働省がホームページで公表しているが、「外国産だから」と括ってしまうと消費者に過度な不安を与えてしまうのかもしれない。心情的に「国産」と「外国産」の二つに分けてしまう面も分からなくはないが、食品衛生の観点で申し上げると、個々の食材の安全性がいかん担保されているのかを科学的に見極めることが大事なのではないかと思う。

安全性の確認については、納入業者、輸入者あるいは生産国などを通じて情報が得られるものもあることから、食材の選定に当たり、保健所としてアドバイスできるところもあると思われる。

2 学校給食費について

○委 員：学校給食費について先が読みづらいところはあると思うが、原油価格が今後最大で70%ぐらい上がるのではないかと、と言われる中で、令和7年度以降はどうなっていくのか、前倒しで見直しを持っておくことが必要なのではないか。

○事務局：前回お話したとおり、主食と牛乳に関しては、埼玉県の学校給食協会から県内の全ての自治体と契約して給食に利用している。県の協会が一括で契約している関係上、市に入ってきた時点では金額は固定となっている。牛乳に関しては、ここ数年大幅に上昇している。牛乳は年間契約なので、年内の価格の変更はない。主食に関しては、年の途中で見直しが行われることがあり、今年11月から麺やパンなどの小麦を使用している製品は、小麦価格が下降していることを踏まえ、平均的に見ると下がっていた。米に関しては、生産コストの上昇からか、若干の値上げがあった。その他の食品に関しても、今年に関しては、すでに去年よりも大きく、食品数で言うと、物価上昇が見込まれている。円安のコスト増も影響していると思われる。

令和7年度に向けて、給食の単価はこのような場で毎年審議をしていく必要がある、と考える。ただ、年度途中で給食費の増減は保護者にも理解が得にくく、また価格の設定、誤りも起こりうる。そして混乱も起こすことから、年度途中で価格改定を行う予定はない。

令和4年度も年度の途中で物価が大きく上昇したが、その場合は市の公費負担として物価高騰分を賄った。年度途中の大幅な変更に関しては公費負担も一つの選択肢と考えている。

○委員：値上げする予定であることは分かったのだが、公費負担は今後も続くのか。保護者の負担額はどうなるのか。

○事務局：この審議会では、給食を提供するために必要な価格を決めてもらう。公費負担については、市の政策もあるので、来年度のことは現時点では決まっていない。

価格高騰分と経済状況、賃金の上昇率と市の子育て政策を加味して総合的に判断していく。

昨年度の学校給食運営審議会の答申では、給食費の値上げに関してはやむを得ないが、物価高騰は子育て世代の生活全般への負担が大きく、保護者負担の増加を懸念する意見もあり、令和4年度の下半期と同様に、令和5年度に関しても同じように負担軽減策を講じてほしい、との意見があったというのを付帯意見として付けている。

今年度も審議会の中で意見がまとまった後、答申の中にこのような文面を入れていければ、と考えている。

○委員：母親目線から言えば、いろいろなものが高くなっている中、給食がこの値段で提供されていることに感謝する。給食費の値上がりに関しては、致し方ないと思う。

○委員：令和4・5年は地方創生臨時交付金というのがあり、公費負担で賄った部分があった。令和6年の価格設定に関しても公費負担を求めるのは有難いが、給食費改定の際に、保護者にとって、急で大きな負担になることは避けなければならない。

○事務局：小学校では238円が302円。大幅な値上げになってしまうため、負担の軽減策があった方が良く、との考えか。

○委員：負担の軽減策と、差額29円はリーズナブルなものではあるが、改めて令和4年から5年へのものを足した場合には、保護者にとって大きなインパクトになってしまうと思う。価格が上がることはやむを得ない、保護者もそこに関しては納得しているが、一気に値段が上がった際にインパクトが大きい。値上げに関しては納得しているが、一気に値上げした場合の驚きで、その後の保護者の協力が得にくくなるのではないか。

○会長：公費負担を求め、保護者の目線で考えた際、少しずつの値上げになった方が良く、との考えである。

- 委員：公費の変動は想定されているのか。事前にわかっているのか。
- 事務局：令和5年は小学校では、238円を273円に価格改定をしたが、その部分の公費負担に関して、年度当初の予算の中で決めていた内容においては、国の財源は使わずに市の財源を使用する、というスタートであった。そして、国庫補助(地方創生臨時交付金)が年度が始まってから交付金がかかることが決定し、給食の価格改定に充てて給食費を据え置く、ということが6月の市議会で補正予算が決定した。
- 年度途中で交付金が増えて、保護者負担を減らすことが市で決定した、とすれば、年度途中でも給食費が変わることもあり得る。
- 委員：中学校では残食が多い。価格が抑えられて人気のものを出していただく、のも良いのかなと思う。子供たちの給食に対して、これだけの補助が出ている、というと分かりやすい。物価高騰に対していろいろな補助金・助成金が出ている。直接的に給食というから、「高い」等と思うが、この金額で給食が食べられていることに学校としても保護者に訴えかけていくことをしなければならない。
- 事務局：市の予算の施策は、いろいろなところで発表はしているが、それが伝わっていない。市の市長部局側と共有し、市のいろいろな政策が市民に伝わるようにしていきたい。
- 会長：食育の視点でも、子供たちにしっかりと食べよう、と働きかけていくことも必要と考える。

3 改定による主な効果について

- 事務局：学校給食では、子供たちが楽しみにしているので、デザートや果物を出している。厳しい現状では、出る回数が減ったり、ミカンが1つでなく、半分になったりしている。果物やデザートは給食にどの程度必要か。
- 委員：献立を見て、偏食気味の我が子は、デザートを楽しみにしている。子供にもよるが、減りすぎるのは良くないと思う。
- 委員：果物やデザートは好みの部分が多い。中学生の様子では、ミカン1個出ても、あまりが多い。今の子は、「ミカンをむく」という動作を億劫がる傾向がある。
- 委員：すでにむいてあり、袋に入った一口で食べられるものは食べるが、冷凍ミカンなどもむきたくない、と食べない子も多い。
- 委員：理想と現実がある。食育として給食をとらえると、時間のかからないもの、好きなものを出せばいいとはいけないのではないか。デザート、果物については、可能な限り維持することを念頭に検討してあげることが食育につながると思う。
- 体をつくるための栄養、という観点ばかりでなく、食育の他の面からも考えてほしい。
- 委員：小学生はデザートや果物が大好き。争奪戦になる。クリスマスケーキのかわいい箱を

家に持ち帰るくらい楽しみにしている。給食の献立の中で、一番高いのがデザートと聞くが、小さい子供たちは楽しみにしている部分もある。

- 委員：グレープフルーツとミカンの違いなども実際に見て、口に入れて学べるものである。
- 委員：小学生は、食べた経験がないものに関しては残りがちである。プルーンやビワなど。おかげで言えば、ひじきなど、黒いものに手を付けない。
- 事務局：食に接する中で、朝・昼・夕の関係で、デザート等、どこで食べればよいのか。
- 委員：昼に食べることが重要であると思う。今は朝をきちんと食べている子は多いのか。
- 委員：食べている子の方が多い。内容は、コーンフレーク等十分かは分からないが。
- 委員：デザートは、お楽しみとして、子供たちが喜んで食べるようなマフィンなど手作りのものが提供できると良い。しかし、給食では難しいし、コスト面も少しダウンさせることもできるが。
- 会長：県内で給食費無償化を行っているところはあるのか。
- 事務局：やっているところはある。63ある自治体の中で7自治体が完全無償化を行っている。今までは村や町が多かったが、今年度から坂戸市も始めた。
3人目の子供以降は無償化を行っているのは戸田市。23区内も多くが行っている。
- 事務局：現在、文部科学省が全国の給食の実態を調査している。西日本では中学校では給食を提供していないところもまだある。補助をしているか、無償化しているかの調査を現在行っているのだから、来年度以降発表されると思う。その後、国として給食をどのようにしていくのか、議論がなされると想定している。
- 事務局：今日いただいた意見を受けて、次回の時に答申の案をまとめさせていただく。そこでさらに、文言などを調整し、答申を作れればと思う。

議題2 その他について

事務局より本審議会以降の署名人について説明

(4) 閉会

(以下余白)